

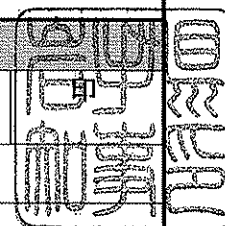
環境省・オフセット・クレジット認証運営委員会  
(事務局:気候変動対策認証センター)御中

平成22年10月8日

## オフセット・クレジット(J-VER)プロジェクト登録依頼書

オフセット・クレジット(J-VER)制度における妥当性確認が終了しましたので、プロジェクト登録を依頼します。

プロジェクト名 <sup>1</sup>			
岩手県県有林における森林吸収量取引プロジェクト			
【依頼者】プロジェクト代表事業者			
事業者名(フリガナ)	岩手県(イワテケン)		
住所	〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1		
代表者氏名	達増 拓也	代表者役職	岩手県知事
担当者氏名	澤口 陽平	担当者 所属部署・役職	農林水産部 森林保全課 技師
担当者 E-mail	y-sawaguchi@pref.iwate.jp	担当者電話番号	019-629-5797
プロジェクト事業者・プロジェクト参加者			
プロジェクト事業者名	岩手県		
プロジェクト参加者名			
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者			
事業者名(フリガナ)	岩手県(イワテケン)		
	以下のうち当てはまる項目に☑ <input checked="" type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト代表事業者である。 <input checked="" type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト参加者である。 <input type="checkbox"/> その他( )である。		



<sup>1</sup> プロジェクト名は、抽象的な表現を避け、「〇〇県△△事業者による□□(排出削減技術)を用いた温室効果ガス排出削減事業」のように、先にプロジェクト実施場所やプロジェクト事業者名を入れる等により、第三者に事業内容が伝わりやすいものとしてください。但し、事業の愛称やキャッチコピーをサブタイトルとしてつけていただくことは可能です。

プロジェクト情報 <sup>2</sup>																										
プロジェクト概要	<p><b>【目的】</b>            当該プロジェクトの目的は、本県県有林で実施する間伐による二酸化炭素吸収量をクレジット化することにより得られる販売収益を、県有林事業に還元することにより、持続可能な森林経営を推進することであり、これにより環境保全や地球温暖化防止に貢献するものである。</p> <p>また、J-VER 制度への参加は、特に県内大規模森林所有者の先行例になるとともに、新たな森林の価値を生み出す手法として、県内森林所有者の森林管理に関する動機付けとなり、環境王国岩手に相応しい低炭素社会の実現に寄与するものである。</p> <p><b>【内容】</b>            森林施業計画に基づき計画的かつ適期の間伐施業を推進するものとする。</p> <p><b>【適格性基準との整合性】</b>            条件1：森林法第5条で規定される地域森林計画対象森林に含まれる。            ① 県有模範林大志田事業区 北上川上流地域森林計画            ② 県有模範林生出事業区 大槌・気仙川地域森林計画            条件2：当該森林施業計画内において、クレジット発行対象期間内に土地転用の計画はない。間伐対象地以外の土地での主伐（択伐等）がなされ、伐採届出の提出を行うこととしている。対象地については、森林施業計画に基づき 2008～2010 年に間伐されたものである。            条件3：盛岡市及び大船渡市から認定を受けている。            ① 大志田事業区 盛岡市長 認定番号 19-1001(変更 19-1001)            期間：平成 19 年 12 月 1 日～平成 24 年 11 月 30 日            ② 生出事業区 沿岸広域振興局長 認定番号 19-1(変更 22-1)            期間：平成 19 年 12 月 1 日～平成 24 年 11 月 30 日</p> <p><b>【法令遵守状況】</b>            ① 森林・林業基本法：第 9 条森林所有者としての責務            ② 森林法：第 5 条地域森林計画、第 11 条森林施業計画            ③ 森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法（間伐等促進法）</p> <p><b>【採用技術】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>メーカー名</th> <th>耐用年数</th> <th>導入時期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>LS-25トラコン</td> <td>牛方</td> <td>5年</td> <td>2006.11</td> <td>面積測量機</td> </tr> <tr> <td>VERTEXⅢ</td> <td>ハグロフ社</td> <td>5年</td> <td>2005.2</td> <td>樹高測定器</td> </tr> <tr> <td>林尺</td> <td>牛方</td> <td>10年</td> <td>2009.7</td> <td>胸高直径測定器</td> </tr> <tr> <td>林尺</td> <td>ハスクバーナー</td> <td>10年</td> <td>2007.2</td> <td>胸高直径測定器</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【モニタリング方法】</b>            ① 活動量：実測            ② 拡大係数：「京都議定書 3 条 3 及び 4 の下での LULUCF 活動の補足情報</p>	機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考	LS-25トラコン	牛方	5年	2006.11	面積測量機	VERTEXⅢ	ハグロフ社	5年	2005.2	樹高測定器	林尺	牛方	10年	2009.7	胸高直径測定器	林尺	ハスクバーナー	10年	2007.2	胸高直径測定器
機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考																						
LS-25トラコン	牛方	5年	2006.11	面積測量機																						
VERTEXⅢ	ハグロフ社	5年	2005.2	樹高測定器																						
林尺	牛方	10年	2009.7	胸高直径測定器																						
林尺	ハスクバーナー	10年	2007.2	胸高直径測定器																						

<sup>2</sup> プロジェクト情報は、プロジェクトの目的・内容の他、適格性基準との整合性・法令遵守状況・採用技術・モニタリング方法・GHG 算定式の方法論への準拠性・モニタリング体制・QA/QC 体制等に関することを 2 ページ以内で記述してください。

	<p>に関する報告書」に記載されている拡大係数を使用する。</p> <p>③収穫予想表:岩手県民有林摘要現実林分収穫表等作成業務報告書</p> <p>【GHG 算定式の方法論への準拠性】</p> <p>モニタリング方法ガイドライン(森林管理プロジェクト)にすべて準拠する。</p> <p>【モニタリング体制】</p> <p>①モニタリング実施者:岩手県農林水産部森林保全課県有林 J-VER 担当</p> <p>②吸収量算定担当者:岩手県農林水産部森林保全課県有林 J-VER 担当</p> <p>③吸収量算定確認者:岩手県農林水産部森林保全課県有林担当課長</p> <p>④吸収量算定責任者:岩手県農林水産部森林保全課総括課長</p> <p>⑤内部監査員:岩手県農林水産部林業振興課林業担当課長</p> <p>【品質保証(QA)】</p> <p>内部で監査員を任命し以下の事項の監査を行う。</p> <p>①記録、入力、確認が適切に行われていることを確認。</p> <p>②モニタリング方法ガイドラインに準拠して適性に作成されているか確認。</p> <p>③適切でない箇所があった場合は指摘し指摘事項を修正させた後再確認。</p> <p>④監査実施後は監査調書を作成し森林保全課で保管。</p> <p>【品質管理(QC)】</p> <p>①教育・訓練</p> <p>吸収量算定担当者、吸収量算定確認者はモニタリングの目的や手順、測定機器の操作方法について、モニタリング調査実施前に操作確認を行うとともに、モニタリング記載方法を熟知し、調査時における作業の効率化を図る。モニタリング実施者に対しては、吸収量算定担当者がモニタリング調査前に、上記について熟知させる。教育・訓練実施後は記録簿を作成し森林保全課で保管する。</p> <p>②データの管理</p> <p>現地調査野帳及びその他記録類の管理については、プロジェクト代表事業者が取りまとめて管理する。また、電子データ(Excel 形式)については、森林保全課及び現地機関がそれぞれ指定された個所に保管し、バックアップ体制を確立する。データの保管期間はH35.3.31 までとし、保管記録簿を作成し森林保全課で保管する。</p> <p>③データの確認</p> <p>測定データ・算定結果については、吸収量算定担当者が電子データ(Excel 形式)で管理する。吸収量算定担当者と吸収量算定確認者は、モニタリング調査実施時に現地調査野帳と算定ファイルを読み合わせなどで突合せ、使用した係数等の妥当性の確認、経年的なデータ変化や林分間の比較等を行い、異常値がないか確認する。確認結果については、記録簿を作成し森林保全課で保管する。</p> <p>④測定機器の維持管理</p> <p>森林保全課で適正に管理し定期的に点検、記録簿を作成、保管する。</p>
--	--

プロジェクト実施場所	①県有模範林大志田事業区 岩手県盛岡市浅岸大志田川 ②県有模範林生出事業区 岩手県陸前高田市矢作町の場						
プロジェクト期間	平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 25 年 3 月 31 日(5 年)						
クレジット期間	平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 25 年 3 月 31 日						
プロジェクト計画開始 届提出日	平成22年8月18日						
妥当性確認終了日	平成22年10月8日						
想定削減・吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	473	787	1,119	1,085	1,072	4,536
適用実施規則	オフセット・クレジット(J-VER)制度実施規則 ver.2.2						
適用モニタリング方法 ガイドライン	オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドライン (森林管理プロジェクト用) ver.1.7						
適用方法論	方法論番号	JRAM001 ver.3.1					
	方法論名称	森林経営活動による CO2 吸収量の増大 (間伐促進型プロジェクト)					
<b>ダブルカウントの防止措置</b>							
ダブルカウントの防止 の措置を講ずる事業 者	(プロジェクト代表事業者と同一の場合は記入不要)						印
公的な報告・公表制 度(判明している公 的制度)	該当なし						
自主的な報告・公表 対象(対象となるホー ムページ、環境報告 書等)	岩手県農林水産部森林保全課ホームページ						
<b>備考欄</b>							

以 上